

平成29年度 島根県教育センター教育研究発表会のご案内

うらかな春を迎えました。皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、当島根県教育センターでは、下記のとおり教育研究発表会を開催することにいたしました。多くの教職員の皆様にご参加いただき、これらの研究成果を教育実践の参考にしていただくとともに、私たちの研究等についてご意見とご感想を賜うことができれば幸いに存じます。
昨年度に引き続き、研究・研修発表においては、発表者とご参加の皆様の双方向性をより高めるため、ポスターセッションによる発表形式も取り入れております。
講演は、金光靖樹氏（大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 学校教育講座 道德教育学コース教授）にお願いしました。教科化時代の道德教育とこれからの道德授業について具体的にお話を伺います。また、ICT機器の体験・展示会を併せて行います。
何かとご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご来場くださいますようお願い申し上げます。
島根県教育センター所長 村木 隆夫

記

- 1 期 日 平成29年5月20日（土） 9:20～16:20
2 会 場 島根県教育センター 講堂 他（松江市内中原町255-1）
3 日 程
（1）受 付 9:00～ 9:20
（2）開会行事 9:20～ 9:30
（3）研究発表 9:35～11:25

■平成28年度 指導主事共同研究発表 9:35～11:25（休憩 10:25～10:35）	
① 校内研修につながるテーマ研修の在り方についての一研究 ～情報モラル推進研修を振り返って～ 研究・情報スタッフ情報セッション 指導主事 青山 浩晃	テーマ研修「情報モラル教育推進研修」の研修内容を広めるために、受講者が校内研修を実施したり、校内での授業実践へとつなげたりする手立てについて、研究成果物の『情報モラル教育校内研修パック2016』の活用とともに、研修の在り方について考察した。
② 高等学校「授業改善」に向けた取組 ～高等学校教育に期待されていること～ 企画・研修スタッフ 指導主事 本間 達也 研究・情報スタッフ研究セッション 指導主事 岡 秀樹	高等学校における「授業改善」に向けた取組について考察した。次期学習指導要領の内容を踏まえ、高等学校教育に期待されていることをまとめるとともに、今後求められる「資質・能力」の育成という視点と、2年間行った学校訪問指導の成果と課題をもとに、本県における高等学校教育への提言を行う。
③ 「主体的な学習」の在り方を見直すための一研究 浜田教育センター 研究・研修スタッフ 指導主事 遠藤 由紀	「何を教えるか」から「どのように学ぶか」へ。教育の変革期である今、「主体的に学習に取り組む態度」を養うためにより一層の授業改善が求められる。「主体的な学習」について教師が共通のイメージをもって授業づくりを進めるために、その在り方を見直し「主体的な学習」にしていくための手立てを提案する。
④ 子どもを見る視点を問い直す ～相談室に来所する子どもをとおして～ 浜田教育センター 教育相談スタッフ 指導主事 山崎 秀雄	子どもの「心の状態」が置き去りにされているのではないかとという問題意識から始め、「自尊感情」と「共有体験」をキーワードに、新たな「子どもを見る視点」を提案する。共有体験の受け取り方の多様性について整理し直したうえでリーフレットを作成し、出前講座等による発信に取り組み、成果と課題をまとめた。

- (4) ポスターセッション 11:35～14:15（昼食・休憩12:05～13:05をはさみます）

発表は、3回に分けて行います（説明15分、質疑応答15分）以下の7つの発表ブースをご自由にご覧いただけます。
【1回目】11:35～12:05 【2回目】13:05～13:35 【3回目】13:45～14:15
【会場】2-2研修室 2-3研修室 会議室

◆平成28年度 指導主事共同研究	
① 校内授業研究推進のための教育センターの支援の在り方 企画・研修スタッフ	校内授業研究推進のための教育センターの支援の在り方について研究を深めた。「指導主事の関わり方リーフレットの作成」「小学校算数科のサンプル指導案の作成」「出前講座の授業改善に関するねらいを整理するためのアンケートの改善と現状の把握」等、研修等を校内で普及するための支援を提案する。
② 「教室に入りにくい子どもを校内で支える」 ～県内小中学校の取組から見えてくること～ 教育相談スタッフ相談セッション	教室に入りにくい子どもの状況について、県内小中学校に質問紙調査を行い、結果をまとめた。併せて「別室登校」をテーマに研究に取り組んでいた京都府総合教育センター、『自立のための新たなかたちの「学び」と「育ち」の場となる学校』として開校した京都市立洛風中学校への聞き取りから考察した。
③ 高等学校における多様な支援ニーズに応じた「チーム支援」の推進を考える ～リーフレット「『チーム支援』で取組もう Ver.1」の活用を通して～ 教育相談スタッフ特別支援教育セッション	高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実をめざして実践する組織づくり「チーム支援」の取組に関して調査・研究を行った。平成27年度に作成したリーフレットの活用の在り方について県内研究協力校での実践を通して検証を行い、成果と課題をまとめた。
◆平成28年度 長期研修員・特別支援教育研修生	
① 「数学的な考え方の指導」についての考察 ～必要なのは、「問題を解きましょう」以外の適切な自問の指導～ 松江市立湖東中学校 教諭 戸谷 千鶴	「いかに自主的に学ばせるか」という視点で学習指導の実践をまとめ、数学的な考え方とは何か、その指導方法、考えるとは何をすることで、どう指導すべきか、数学で考える指導をする意義とは何か、中学校数学で考え方指導するために整えていくべきことは何かなどについて再考した。
② 「気になる子ども」へのかかわりを考える ～温かい人間関係づくりを大切に～ 安来市立十神小学校 教諭 井上佳代子	これまで出会った「気になる子ども」へのかかわりから、「思いを理解する」「自己成長力を信じる」「保護者をささえる」という心構えを大切にしながら具体的ななかかわりについて探った。また、子ども同士のかかわりを大切にしながら集団活動の中で子どもの成長について、これまでの実践からまとめた。
③ 特別支援教育の視点に立った子ども理解 松江市立湖東中学校 教諭 稲場 宏満	子ども理解について特別支援教育の視点から研修を深めた。子どもの行動の背景を特別支援教育の視点から見ることを学び、「ICF支援シート」の作成では環境とのかかわりから子どもへの支援を考えた。また、子どもの共感的理解について子どもとのかかわりを通して考察した。
④ 発達を視点をふまえた子ども理解 ～肢体不自由のある児童の自立活動の取組から～ 松江清心養護学校 教諭 森脇久美子	重度重複障がいのある児童の認知を育てるために、乳幼児期における「発達の道すじ」と「発達の意味」を整理し、まとめ、その視点をふまえ、自立活動の授業を実践し考察した。発達の視点をふまえた子ども理解について、研修したことから考察した。

- (5) 講 演 14:30～16:10

《詳細は、別紙をご覧ください》

演題 「道德授業－教科化で変わるところ、変わらないところ」

講師 大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 学校教育講座 道德教育学コース 教授

金光靖樹氏

- (6) 閉会行事 16:10～16:20

- 4 展示等 9:20～16:20（1階：本館1階ロビー 2階：研修準備室）

島根県教育センター ICT体験・展示会 2017 ～授業や校務に役立つ最新機器やコンテンツを体験できます！～

- 5 その他

- (1) 参加申し込み、参加費等は必要ありません。（資料は当日準備いたします）
(2) 昼食を注文することができます。（昼食受付8:40～9:30）
(3) 教育センター本館駐車場と入口正面の第2駐車場をあわせた駐車可能台数は、約100台です。駐車できない場合もありますので、できるだけ公共交通機関を利用してお出かけいただくか、乗り合わせてお出かけくださいますようお願いいたします。
(4) 本発表会の参加をもって、初任者研修の校外自主研修（「エ 研修会・研究会をとおしての研修」）、管理職セレクト研修とすることが可能です。

問い合わせ先

〒690-0873 松江市内中原町255-1
TEL(0852)22-5873

島根県教育センター 研究・情報スタッフ 梶谷 敏樹
E-mail: kajitani-toshiki@edu.pref.shimane.jp